

1, 会長挨拶、役員自己紹介

2, 議事

① R6 下半期のイベント等

- ・現場見学会：新名神神田川橋 12/12（木）鹿島建設副所長浜田様（H6）
- ・東京支部総会（11/15（金）会長、幹事長出席）若手教員派遣要請
- ・都市会ゴルフ
- ・就職ガイダンス（10/3, 11/7）：終了後都市会主催の懇親会
（5万円程度/回ただし企業参加者から2000円/人徴収）
- OB/OG 相談会：ZOOM（都市会関与なし）
- ・役員推薦委員会（3月）：交代がある場合＜交代意思確認1月頃から＞
- ・第三回役員会（3月）：次年度会報内容/次年度予定
- ・卒業式（3月） 会長出席予定（今年度から都市会賞（仮称）を贈与予定）
- ・年末講演会：現場見学会を開催

②会報（別紙 他大学 OB 会状況）

- ・発行媒体の電子化？（印刷費40万円/郵送費31万円）
京土会 R4 から電子化、阪大電子化検討、地盤工学会誌電子化
- ・会費滞納者への対応（京土会：3年、阪大：4年滞納で停止）
都市会：半数以上が多額滞納者
- ・24/10 から郵便料金値上げ：総会・会報郵送料140円→180円
（R6 郵送料314千円→404千円）

③会員への活動支援

- ・総会等へのイベント参加費への支援（これまでは必要経費を徴収）
- ・総会への2000円/人補助（R6）
- ・卒業式での花の提供、今年度から優秀等学生への「都市会賞」
- ・「10年の絆」対象学年への費用補助？
- ・都市会ゴルフ：1万円
- ・東京支部活動への支援：関東地区会員会費納入額の2割（R6：62千円）

④工学部同窓会からの剰余金の扱い

- ・阪大、神戸大学：預貯金、市大工学部同窓会：預貯金

⑤大阪公立大学校友会からの OB 会への活動支援金制度（限度額20万円程度）

- ・総会：3万円限度
- ・役員会会場代：2千円*3回
- ・講演者への謝礼、交通費
- ・イベント補助費
- ・HP 初期費用、管理費
- ・通信費：総会案内状送付経費

第二回役員会議事録 2024/09/26 文化交流センター小セミナー室

1, 出席者：中尾、吉備、吉田、谷口、内田、中林、松尾、藤田、倉本、浅井、原田、古谷 12 名

2, 要旨

1) 大阪周辺の大学土木 OB 会の HP より抜粋の資料説明

年会費は全て 3000 円（大阪公立大学建築会は入学時に 3 万円の 1 回払い）

2) 都市会の卒業年別の会費納入状況資料説明

R5 年度 納入残額 57963 千円に対し、納入額は 1834 千円

3) R6 下半期のイベント等

・卒業生への都市会からの仮称「都市賞」については、優秀学生賞が学部学生対象で大学院修了生にはないため、「大学院修了生」対象として、西岡学科長と調整

・大阪モノレールの現場見学が可能である（吉備副会長）⇒今年度可能であれば事務局と調整お願いしたい。

・次年度、役員交代の希望者は早めに事務局に申し出てほしい。

・学科主催の学生現場見学会については、OB にお世話になり今年度梅キタの現場見学会を開催、また、学生インターンシップについては、期間中の学生への謝金制度（アルバイト）がなくなっており、学生の関心が低下している傾向もある。

4) 会報

（電子化）

・紙ベースでもらっても、後日読む時に探すのが大変で、HP でアクセスできるなら問題ない、実家に届いている人も多く、手元に届いていない場合がある。デメリットはない。総会案内と会費の納入依頼と併せ、会報の電子化・PW を通知することになる。

⇒電子化することに特に異論はなかった。

・印刷費・郵送費の予算を会員サービス向上の原資とすることはよい。

・HP にアップする場合は、トピック毎にアクセスできるようにすれば便利、また、内容により PW 化する。ただ、PW を設けることで、アクセスしにくくなる懸念もある（総会開催時の案内に PW を通知しても忘れてしまう）

・電子化する場合は、広告掲載への魅力低下？

・遠隔地の会員には、会報を届けることが唯一のサービスになっている。

（会費）

・会費納入方式で、阪大はクレジットの自動引き落としとしている。検討してはどうか。

・会費滞納者：京大、阪大はサービス停止しているが、このことについては継続議論

・長期未納額をリセットしては？：毎年、数万円の一括納入者も 10 名程度いる。数年前にその議論をして現制度継続とした経緯がある。滞納者は、リセットしても納入しない可能性が高い？

5) 会員への活動支援

・年度末に、大阪市立大学同窓会から剰余金が 900 万円位頂けると聞いている。そうした原資も活用して、会員へのサービス向上に使いたい。会員へのイベント等の参加費をできるだ

け少なくしたい。今年の総会で 2000 円/人補助とした。10 年の絆対象学年にも補助も検討している⇒反対の声はなし

・学生への支援：学生への企業からの情報提供の話が出たが、学科就職担当が窓口になっているため、調整が必要で先走りはしない。

・新大学で工学部学科同窓会が設立され、学科同窓会の会費を校友会が代行徴収する制度がある。都市会は毎年徴収システムなのでなじまないが、学年別会費納入資料でも説明したとおり、平成後期卒業生の納入率が低下していることもあり、会費制度の今後の議論のなかで、令和 X 年度入学生から入学時徴収制度の議論も検討する必要があるかも？

5) 剰余金の運用方法

・他大学と同様の預貯金？継続議論

6) 大阪公立大学校友会から都市会への支援制度

・既に、総会、HP 管理費、総会案内郵送費の請求をしている。年間 20 万円の限度額はあ
る。(9/27 校友会から総会は会場代のみ支援で、飲食費への支援はない旨連絡あり)

<今後の議論：次回の役員会でさらに議論し、電子化については結論を出す>

- ・会報の電子化の方向には異論はなし、年度末の役員会で議論を深め結論を出す。
- ・会員へのサービス向上メニュー案を作成し役員会で議論
- ・工学部同窓会の剰余金の運用については、次回役員会で議論
- ・優秀学生賞は西岡学科長に相談
- ・会費の徴収のあり方は当面変更の議論はなし